
「主体的に深く考え、認め合う子ども」の育成

***** 旭川市立緑が丘小学校 令和7年度 学校評価 結果と考察 *****



寒冷の候、保護者の皆様におかれましては、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。短い3学期の日々を大切にしながら、年度の締めくくりを目指して教育活動を推進しているところでございます。どうぞ、変わらぬ御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、2学期末に今年度の学校教育活動に関するアンケートを御依頼申し上げましたところ、御多様な時節にもかかわらず、たくさんの御協力をいただきましたことに心よりお礼申し上げます。保護者の皆様から賜りました評価は、教職員自身の評価、児童へのアンケート調査、学校評価者（学校運営協議員）からの評価と合わせまして、以下のとおりまとめさせていただきました。また、保護者の皆様からお寄せいただいた記述による評価は、総数34件にも及びました。多岐にわたる御意見や御要望、御示唆は、大変貴重なものとして受け止めております。今後の教育活動の改善に生かし、次年度の教育計画を構想するための重要な資料とさせていただきます。

子供たちの1年間の変容や成長を的確に把握し、本年度の重点目標である「主体的に深く考え、認め合う子どもの育成」を完結してまいります。

引き続き御支援をよろしくお願いいたします。

令和8年2月27日

旭川市立緑が丘小学校 校長 林 崎 俊 一

1 評価者について

今回の学校評価は、教職員による自己評価のほか、児童、保護者及び、学校評価者(学校評議員)のアンケート調査への協力で実施しました。今年度は、運動会や学習発表会、地域参観日等の行事等で学校運営協議会員の方に来校いただいた際に、子どもたちの取り組んでいる姿を直接ご覧いただき評価していただきました。項目の中で、なかなか評価が困難な部分もありますが、教育活動について貴重なご意見もいただいております。

2 評価項目・評価の観点について

評価項目について、教育目標や年度の重点を踏まえたものとなるようにしています。また、経年で比較評価を実施していることもあり大幅な評価内容の変更はありませんが、ここ数年の教育活動の状況を鑑みて、今年度は項目の一部を整理しました。評価項目の内容によって「教職員」「学校評価者」に限定したものもあります。また、児童の評価観点は、発達段階に応じた設問の文章表記としています。

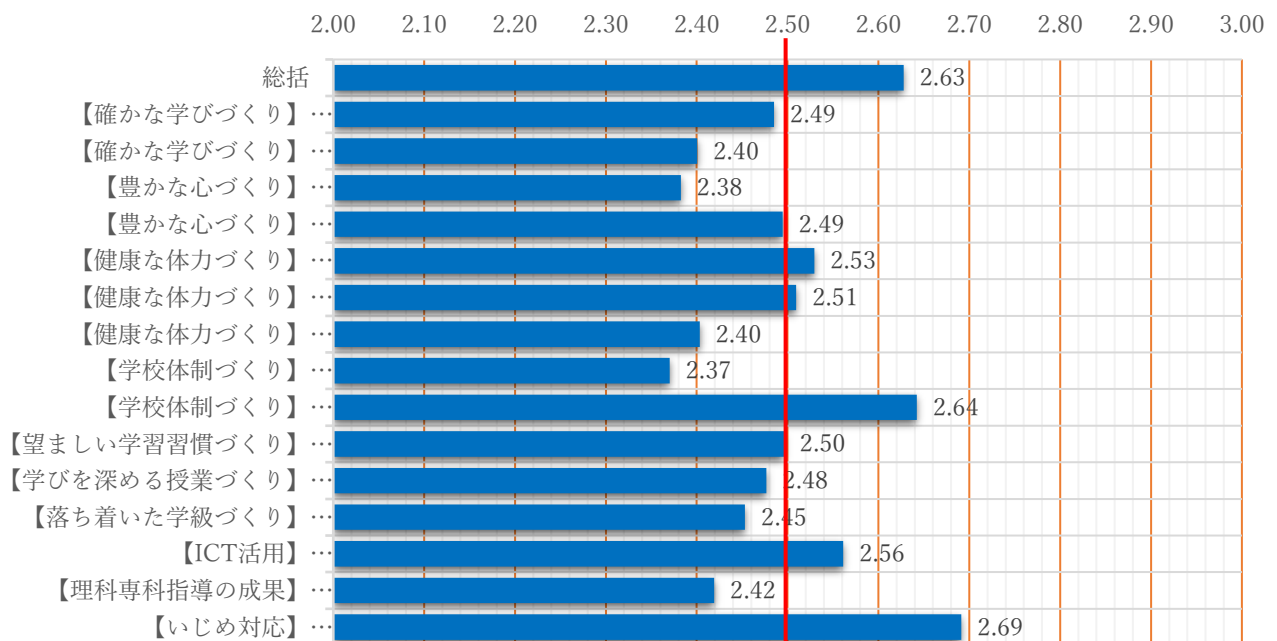
項 目	評価の観点
総 括	総括評価指標 「学校に来ることが楽しいですか」
重 点 1 学びの定着	【学校教育目標】「考える子ども」深く考え 学習したことがよくわかり身に付けさせる指導
重 点 2 学びの自信	【学校教育目標】「考える子ども」 お互いのよさを生かせる協働的な学習指導の工夫
重 点 3 向上心	【学校教育目標】「豊かな子ども」 自分の行いや暮らしに向き合い、自分のよさに気付かせ、自信につなげる指導
重 点 4 思いやり・協力	【学校教育目標】「豊かな子ども」(道徳)認め合い 友達との豊かな関わりへの意識を高める指導
重 点 5 健康・安全	【学校教育目標】「強い子ども」最後までやり遂げる 安心して学べる環境づくり
重 点 6 体力向上	【学校教育目標】「強い子ども」 体力を高める意識や意欲を育てる指導
重 点 7 健康的な生活	【学校教育目標】「強い子ども」 健やかな生活や体づくりへの意欲を高める指導
重点8 ① 教職員協働体制	【学校体制づくり】 職員が一体となって、年度重点の達成や教育の充実を図る職員体制
重点8 ② 児童との関わり	【学校体制づくり】 働き方改革の目的 子どもに向かい合う時間を確保するための業務の精選
教 務 学習習慣	【望ましい学習習慣づくり】 最後までやり遂げる 効果的な宿題、生活習慣、家庭との連携
研 修 授業改善	【学びを深める授業づくり】 (授業改善)深く考え 資質・能力を明確にした指導計画
生 活 生活のきまり	【落ち着いた学級づくり】 認め合い 学習規律の定着、人間関係づくり、教室環境整備
リーディング DX	【ICT 活用】 1人1台端末の効果的な活用 働き方の改革による教育効果の最大化
理科専科指導	【理科専科教員の効果】 (3年生以上) 理科の学習への意欲、理解度
いじめ防止対策	【いじめ対応】 教職員はいじめ防止基本方針に基づき、いじめを適切に認知し迅速かつ組織的に対応している。

3 評価の規準について

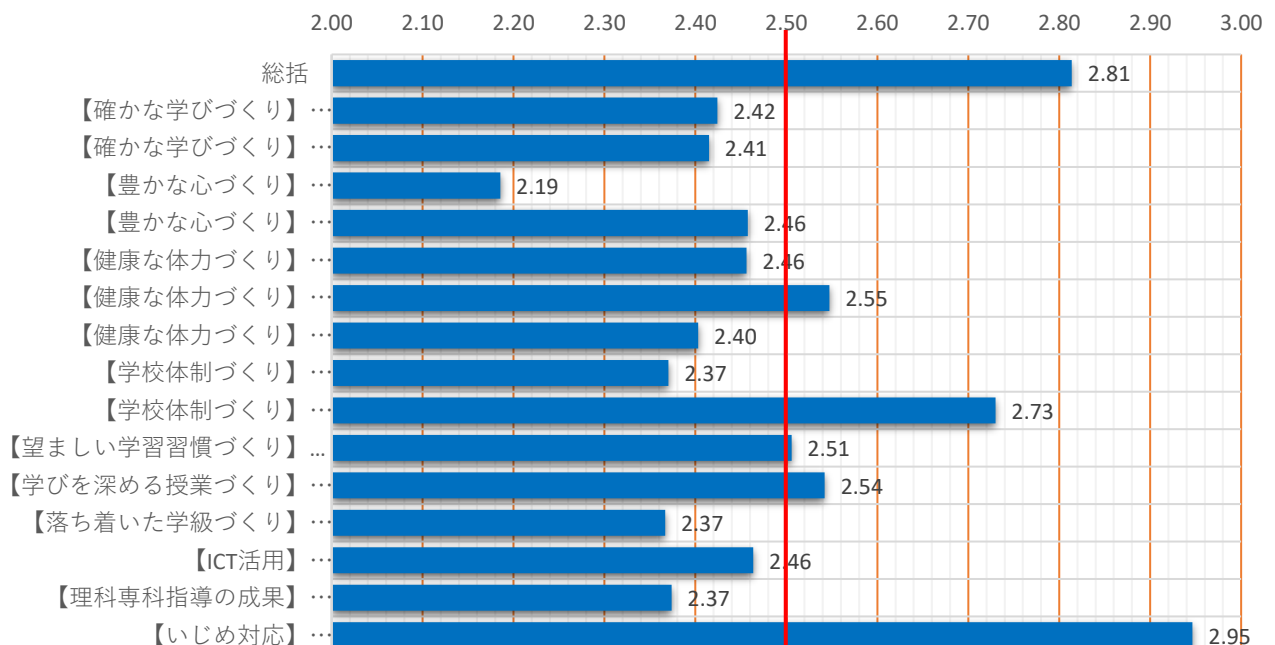
- ①各評価者には、そう思う(4ポイント)、ややそう思う(3ポイント)、あまり思わない(2ポイント)、思わない(1ポイント)の4段階で評定してもらいました。
- ②集計結果については、評価者ごとの比較条件を平準化するために、中央値を 2.50 ポイントとし、標準化しています。つまり、2.50 ポイントがちょうど全項目で規準となりますので、これとの増減により各評価を比較することができます。また、全ての評価者グループの規準を 2.50 にそろえることで、他のグループとの比較を容易としております。

4 各評価結果について

令和7年度 学校評価(期末) 【全体】

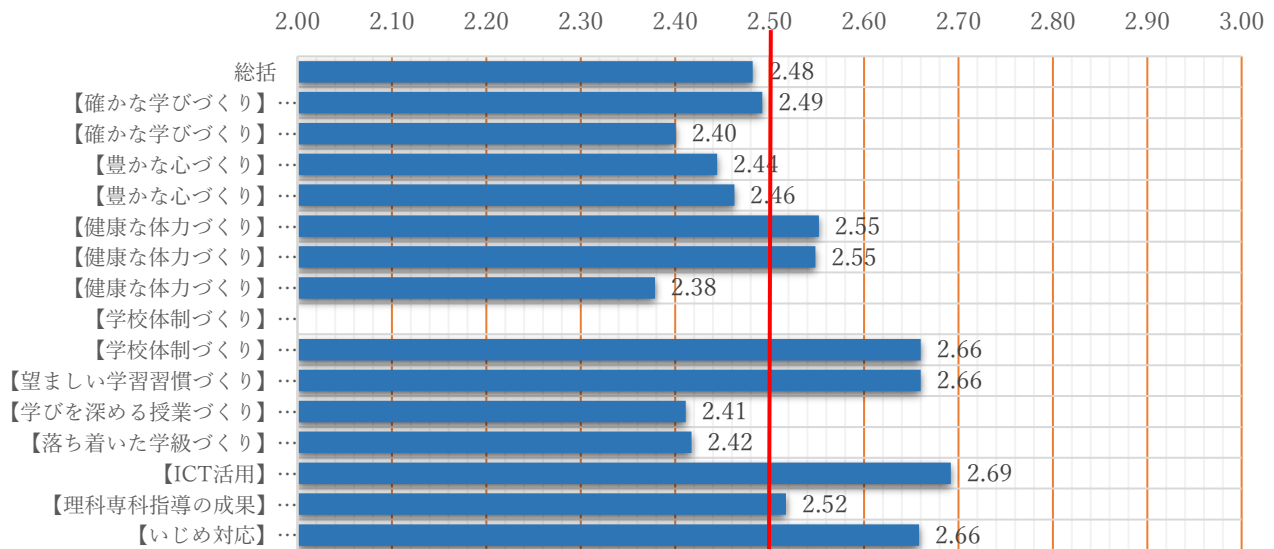


令和7年度 学校評価(期末) 【教職員】



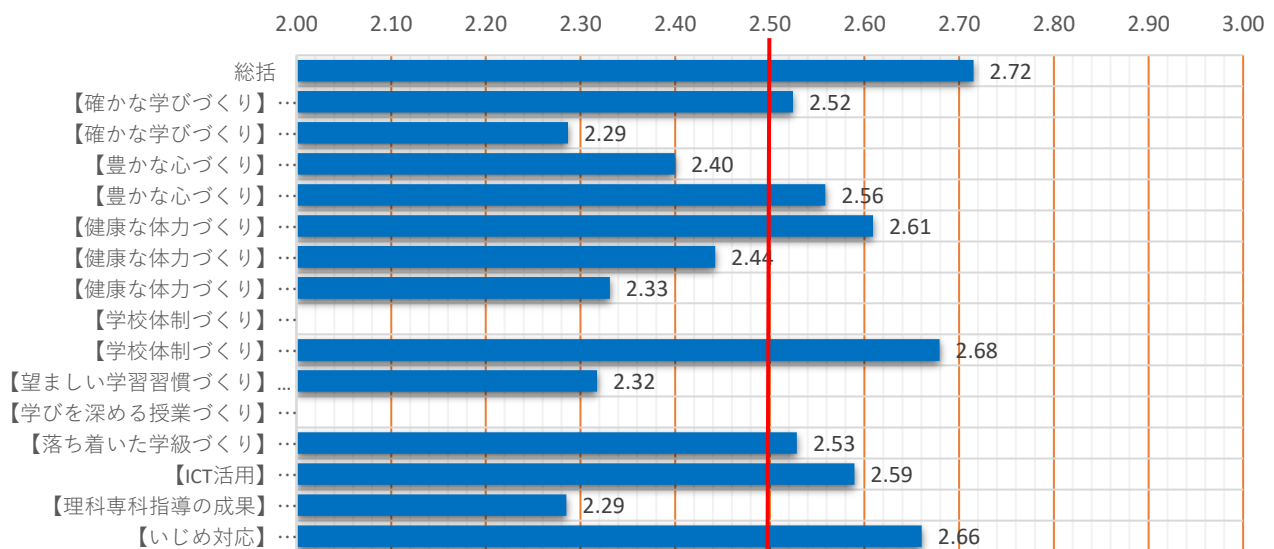
令和7年度 学校評価(期末)

【児童】



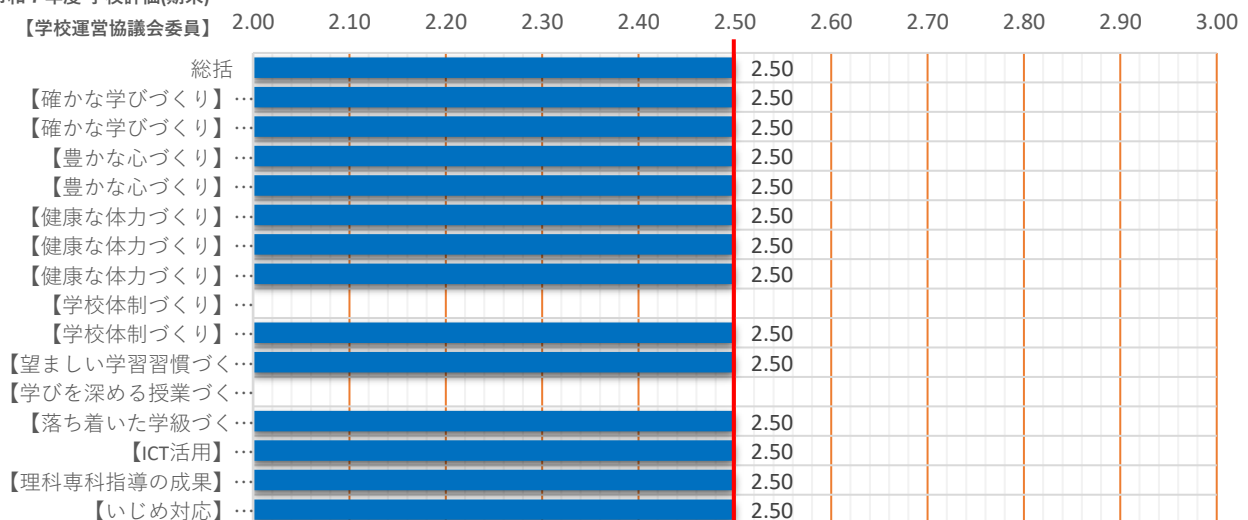
令和7年度 学校評価(期末)

【保護者】



令和7年度 学校評価(期末)

【学校運営協議会委員】



1 教職員・児童・保護者の三者に見られる特徴・傾向と要因として考えられること

	特 徴 ・ 傾 向	要 因 と 考 え ら れ る こ と
教職員	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に基準値よりやや厳しめの評価傾向 ○安心・安全面はしっかり維持できている ・学習の主体性、行動面、ICTの活用などについて慎重な見方が多い。 ・いじめ防止や学校生活の安定など、基盤部分は高く評価。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導の専門的視点から課題を認識しているためと考えられる。 ・日々の指導の中で細かな課題や改善点に目が向きやすい。 ・「さらなる伸長」「次の段階へ高めたい」という専門的視点。 ・成果だけでなく過程や個人差を踏まえて評価している。
児童	<ul style="list-style-type: none"> ○基準を上回る項目が多く比較的ポジティブな評価 ○「学校生活の楽しさ」や「友達関係」、「ICTの活用」などでは2.50を超えている。 ・自分の実感に基づき、「できている」「楽しい」と感じる傾向。 ・学習内容の難しさや行動面について実感に差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目の前の体験や気持ちを重視して評価する傾向がある。 ・成果をポジティブに捉えやすい発達段階である。 ・安心できる環境が整っていることを実感している。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ○ほぼ全項目で基準値の2.50に近いか、やや上回る評価 ○生活面や学校の雰囲気、安心感については高めの評価。 ・学校の取組全体を安定的・肯定的に捉えている。 ・学習の内容や主体性については、見えにくさもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参観日での様子や家庭での子供の様子や話からの評価となる。 ・安心して通えているかどうかを重視。
全体	<ul style="list-style-type: none"> ○児童・保護者は肯定的な評価 ○教職員は改善志向 ・学校の基盤は安定しているが、教職員は「次の成長段階」を意識している ・見る立場の違いが、評価の違いとして表れている 	学習内容の理解・定着 自らの学習への自信 全体的に基準以下で、課題とみられる行動・生活の向上 教職員が基準よりかなり低い評価 思いやり・助け合い 概ね基準以上で安定 いじめ防止対策 全体的に高評価

2 「全体」として見た成果と課題、具体策

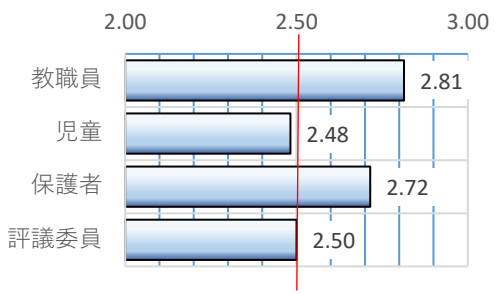
成 果	課 題	具 体 策
<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちが安心して学校生活を送れている。 ○いじめ防止や人間関係づくりが学校全体で定着している。 ○学校生活を「楽しい」「落ち着いている」と感じている児童が多い ○ICTの活用や授業改善が一定程度進んでいる。 	▲主体的に考え、行動する力の伸びに課題	主体性・行動力の向上 ◇教育活動での児童が「自分で選ぶ」「決める」場の設定 ◇小さな成功体験の積み重ね ◇児童が自己評価・振り返りを習慣化できる時間の設定 ◇行動のよさの可視化
	▲協力して学ぶ場面や、行動面の質の向上	協働的な学びの充実 ◇役割を明確にしたグループ活動 ◇話合いの進め方の丁寧に指導 ◇協力することのよさを実感できる活動設定
	▲ICTを「使う」段階から「学びを深める」段階への移行	ICTの活用の質を高める ◇「何のために使うのか」を明確にした授業づくりのさらなる推進 ◇調べる・まとめる・伝える場面でのより効果的な活用 ◇教職員同士での実践共有

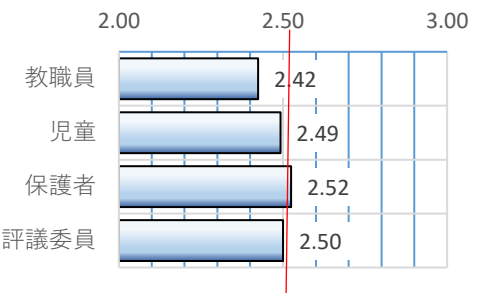
3 三者評価のまとめ

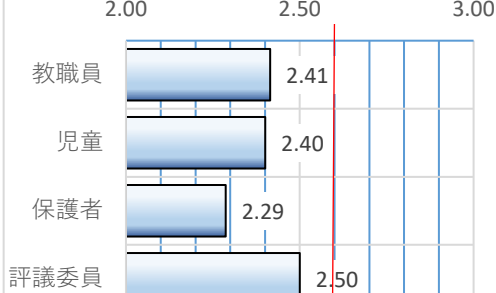
三者評価から、本校は「安心して過ごせる安定した学校」である一方、「主体性・協働・学びの深まり」をさらに高めていく段階にあると考えます。

5 項目ごとの分析結果について

〔教〕:教職員から 〔保〕:保護者から 〔□年児〕:児童から 〔運〕:学校運営協議会員からの記述評価

【1】 総括	【年度の重点目標: 主体的に深く考え、認め合う子どもの育成】 本校の児童は、学校生活を楽しんでいる。										
 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>2.81</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>2.48</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>2.72</td> </tr> <tr> <td>評議委員</td> <td>2.50</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	評価値	教職員	2.81	児童	2.48	保護者	2.72	評議委員	2.50	主な記述評価 〔保〕学校での様子を楽しく話してくれています。 〔保〕毎日楽しく学校に通って良い友達と切磋琢磨し成長しあえる良い環境だと思います。 〔保〕お友達と仲良く、毎日楽しく登校しています。学習面では苦手な教科があり困る事もあるようですが先生や周りのお友達に助けをもらいながら心折れずに努力する事が出来ています。
評価者	評価値										
教職員	2.81										
児童	2.48										
保護者	2.72										
評議委員	2.50										
考察・今後の改善	教職員・保護者から高い評価が得られており、学校全体として落ち着いた教育環境が整っていることがうかがえます。一方で、児童の評価はやや低く、学校の取組や成果を児童自身が十分に実感できるよう、これまでの取組を基盤として、一層振り返りや自己評価の機会を充実させていく必要があります。										

【2】 重点1 学びの定着	【学校教育目標「考える子ども」:確かな学びづくり】 本校の児童は、学習したことをよく理解し、身に付けている。										
 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>2.42</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>2.49</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>2.52</td> </tr> <tr> <td>評議委員</td> <td>2.50</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	評価値	教職員	2.42	児童	2.49	保護者	2.52	評議委員	2.50	主な記述評価 〔保〕夏休み明けから、学力がワンランク上がって伸びてきたように思います。発達過程での伸びなのかなと思いますが、成長を感じます。 〔保〕宿題で間違えたところを復習しテストで似た問題が出たとき落ち着いて解くことが出来ていると思います。 〔保〕毎日の宿題を通して着実に身につけていると思います。
評価者	評価値										
教職員	2.42										
児童	2.49										
保護者	2.52										
評議委員	2.50										
考察・今後の改善	各評価者ともにおおむね同程度の評価となっており、学習内容の理解や定着が一定程度図られていると考えられます。今後も、1人1台端末も効果的に活用しながら、個に応じた指導や振り返り活動を工夫し、より確かな学力の定着を目指していきます。										

【3】 重点2 学びの自信	【学校教育目標「考える子ども」:確かな学びづくり】 本校の児童は、自分の学習に自信を持っている。										
 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>2.41</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>2.29</td> </tr> <tr> <td>評議委員</td> <td>2.50</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	評価値	教職員	2.41	児童	2.40	保護者	2.29	評議委員	2.50	主な記述評価 〔教〕学びの自信に関して、個々によって感じ取り方の違いがあると思います。 〔保〕先生の教え方がわかりやすく、自分から積極的に学習に向かえるようになってきた。
評価者	評価値										
教職員	2.41										
児童	2.40										
保護者	2.29										
評議委員	2.50										
考察・今後の改善	教職員と児童の評価に比べ、保護者の評価がやや低い結果となりました。児童が自分の成長や学びに自信をもてるよう、成果を可視化する掲示や発表の場を設けるなどして、取組をさらに工夫して達成感につなげるようにしていきます。										

【4】 重点3 向上 心	【学校教育目標「豊かな子ども」:豊かな心づくり】 本校の児童は、自分の行いやくらしを高めようとしている。										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>2.19</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>2.44</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>評議委員</td> <td>2.50</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	評価値	教職員	2.19	児童	2.44	保護者	2.40	評議委員	2.50	<p>主な記述評価</p> <p>〔教〕基本的には、よりよく過ごそうと考えながら生活している様子が多く見られます。</p> <p>〔保〕本当にいつも楽しそうに学校へ行っていますし、いつも楽しかったことを教えてください。</p> <p>〔保〕子供達の心の成長を感じております。</p> <p>〔保〕友達とも関わりを思っ過ごせている。</p>
評価者	評価値										
教職員	2.19										
児童	2.44										
保護者	2.40										
評議委員	2.50										
考察・今後の改善	<p>教職員の評価が低めである一方、児童・保護者の評価は一定の成果を感じていると捉えられます。生活面での指導について教職員間で共通理解を深め、継続的な声かけや指導の在り方を見直していきます。また、児童が自分で考えて行動できるよう支援していきます。</p>										

【5】 重点4 思いやり	【学校教育目標「豊かな子ども」:豊かな心づくり】 本校の児童は、互いに思いやり、助け合って活動している。										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>2.46</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>2.46</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>2.56</td> </tr> <tr> <td>評議委員</td> <td>2.50</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	評価値	教職員	2.46	児童	2.46	保護者	2.56	評議委員	2.50	<p>主な記述評価</p> <p>〔教〕緑小っ子は助け合い、思いやりがとてもできていると感じます。</p> <p>〔保〕思いやりはあると思う。よく困っている子がいたら声をかけているとの話を聞くから。</p> <p>〔保〕まわりのお子さんや保護者の方々が優しく見守ってくださるおかげで、本人も同じように接することができているように思います。</p>
評価者	評価値										
教職員	2.46										
児童	2.46										
保護者	2.56										
評議委員	2.50										
考察・今後の改善	<p>全体的に高い評価が得られており、児童同士の温かな関わりが育まれていることがうかがえます。実際に、助け合ったり、思いやりをもって接したりする姿も多く見られます。今後も、日常の学校生活や行事等を通して、思いやりの心をさらに伸ばしていきます。</p>										

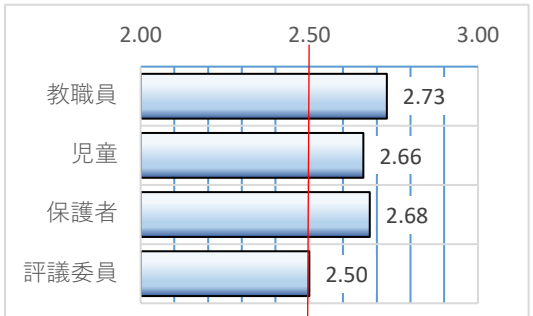
【6】 重点5 健康・安全	【学校教育目標「強い子ども」:安全な生活習慣】 本校の児童は、健康や安全を意識して、よりよい生活習慣を身に付けている										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>2.46</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>2.55</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>2.61</td> </tr> <tr> <td>評議委員</td> <td>2.50</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	評価値	教職員	2.46	児童	2.55	保護者	2.61	評議委員	2.50	<p>主な記述評価</p> <p>〔教〕今年度、児童のけがが少ないと感じています。</p> <p>〔保〕特に体調を崩すこともなく元気に過ごしている。</p> <p>〔保〕学習はできていますが、永遠とタブレットを見るがあるので1時間で切れるようにしてほしいです。</p>
評価者	評価値										
教職員	2.46										
児童	2.55										
保護者	2.61										
評議委員	2.50										
考察・今後の改善	<p>児童・保護者から高い評価が得られ、健康や安全に対する意識が身についてきていると考えられます。健康や安全について意識し、規則正しい生活を心がける児童が増えてきており、けがの数も減ってきています。引き続き、安全指導を徹底し、加えて、ご家庭と連携しながら望ましい生活習慣の定着を進めていきます。</p>										

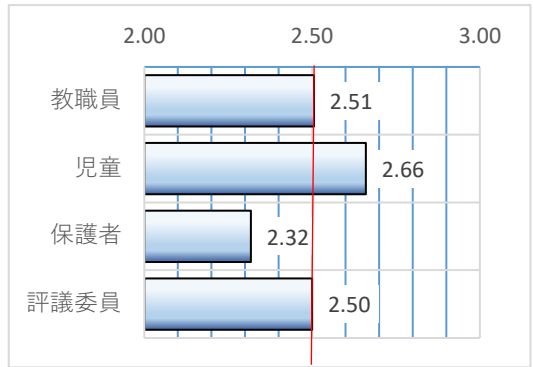
【7】 重点6 体力	【学校教育目標「強い子ども」:健康な体力づくり】
------------	--------------------------

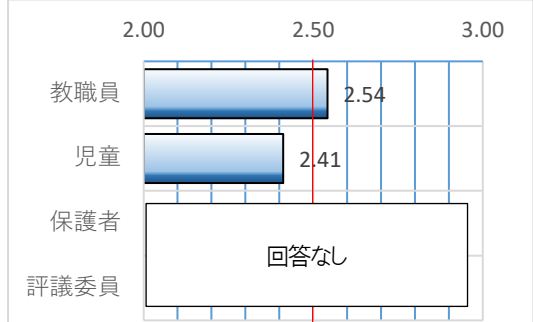
向上	本校の児童は、体づくりに進んで取り組み、運動の成果や体力の高まりを感じている。										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>2.55</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>2.55</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>2.44</td> </tr> <tr> <td>評議委員</td> <td>2.50</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	評価値	教職員	2.55	児童	2.55	保護者	2.44	評議委員	2.50	<p>主な記述評価</p> <p>[教]中休みや昼休みに体育館で遊ぶ子供が多いです。 [教]体を動かすことが好きな子供たちがたくさんいるので、体づくりは十分できていると感じます。 [保]習い事を中断したため、家で体力作りをしている。</p>
評価者	評価値										
教職員	2.55										
児童	2.55										
保護者	2.44										
評議委員	2.50										
考察・今後の改善	<p>教職員・児童ともに評価が高く、「がんばりマラソン」や「なわとび」、「体育委員会企画の運動環境整備」等の継続的な取組の成果が表れていると考えられます。今後も児童の個々の課題を明確にしなが、体づくりや安全教育を計画的に進め、児童が主体的に健康を意識したり、楽しく体づくりができる活動したりできるよう支援していきます。</p>										

【8】 重点7 健康的な生活	【学校教育目標「強い子ども」：けじめのある生活・健康な生活】										
本校の児童は、けじめのある生活や健康な生活を身につけている。											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>2.38</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>2.33</td> </tr> <tr> <td>評議委員</td> <td>2.50</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	評価値	教職員	2.40	児童	2.38	保護者	2.33	評議委員	2.50	<p>主な記述評価</p> <p>[教]日常、日課表に従って移動や準備をよくできている様子が見られます。</p>
評価者	評価値										
教職員	2.40										
児童	2.38										
保護者	2.33										
評議委員	2.50										
考察・今後の改善	<p>全体的にやや低めの評価となっており、生活習慣の定着に課題が見られます。学校での指導に加え、学校と家庭が協力しながら、あいさつや時間を守ることなど、基本的な生活習慣を身につけられるよう支援していきます。</p>										

【9】 重点8 教職員協働体制	【学校体制づくり】										
教職員は、重点目標の実現と教育の充実のために、温度差なく協働して取り組んでいる。											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>2.37</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>回答なし</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>回答なし</td> </tr> <tr> <td>評議委員</td> <td>回答なし</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	評価値	教職員	2.37	児童	回答なし	保護者	回答なし	評議委員	回答なし	<p>主な記述評価</p> <p>[教]これからも、スタンダードなども共有しながら、情報をこまめに交流し、日々の学習や生活に協働で取り組んでいく必要があります。</p>
評価者	評価値										
教職員	2.37										
児童	回答なし										
保護者	回答なし										
評議委員	回答なし										
考察・今後の改善	<p>教職員評価から、重点目標に向けた取組は着実に進められているものの、さらなる改善の余地があると考えられます。低学年、中学年、高学年と各学年ブロック内での協働的な学びや活動なども計画し進めてきました。今後も教職員間の情報共有や協働体制を一層充実させていきます。</p>										

【10】 重点8 児 童との関わり	【学校体制づくり】 教職員は、子どもの話をよく聞き、ともに活動している。										
 <p>A horizontal bar chart with a scale from 2.00 to 3.00. A red vertical line is drawn at 2.50. The bars represent the following scores: 教職員 (2.73), 児童 (2.66), 保護者 (2.68), and 評議委員 (2.50).</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>2.73</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>2.66</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>2.68</td> </tr> <tr> <td>評議委員</td> <td>2.50</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	評価値	教職員	2.73	児童	2.66	保護者	2.68	評議委員	2.50	<p>主な記述評価</p> <p>〔教〕子供の話を聞いてから行動、事実確認をしてから対策など、子供との対話を大事にしています。</p> <p>〔保〕担任の先生は、子どものことをよく見てくださっていると感じます。子どもも先生のことが好きで、家庭学習やテストのコメントなども喜んでいきます。</p> <p>〔保〕担任の先生の対応を始め、校長先生の朝のパトロールなど子ども一人ひとりに対して真摯に向き合って下さる温かさをすごく感じます。安心して通わせられます。</p>
評価者	評価値										
教職員	2.73										
児童	2.66										
保護者	2.68										
評議委員	2.50										
考察・今後の改善	各評価者から高い評価が得られており、組織的な指導体制が機能していることがうかがえます。今後もさらに児童理解を深め、児童1人1人にしっかりと目を向けて、チームとしての指導力向上を目指していきます。										

【11】 教務 学習 習慣	【学校体制づくり】 児童の家庭での学習習慣の定着が図られている。										
 <p>A horizontal bar chart with a scale from 2.00 to 3.00. A red vertical line is drawn at 2.50. The bars represent the following scores: 教職員 (2.51), 児童 (2.66), 保護者 (2.32), and 評議委員 (2.50).</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>2.51</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>2.66</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>2.32</td> </tr> <tr> <td>評議委員</td> <td>2.50</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	評価値	教職員	2.51	児童	2.66	保護者	2.32	評議委員	2.50	<p>主な記述評価</p> <p>〔保〕帰宅後はまず宿題をする事がしっかり身につについており、家庭学習の日がある事で自分で考えて学習をする事が出来るようになっております。</p> <p>〔保〕毎日の宿題があることにより、帰宅後すぐに勉強をするという流れが定着しました。宿題以外にも家庭学習(タブレット学習)をすることが習慣化しています。</p> <p>〔保〕家での取り組みは、3年生までは一緒に勉強し、4年生は親が少しだけサポートし、5年生からは完全に1人で勉強に取り組めるようになりました。</p>
評価者	評価値										
教職員	2.51										
児童	2.66										
保護者	2.32										
評議委員	2.50										
考察・今後の改善	児童の評価は高い一方、保護者の評価がやや低い結果となりました。学校では、児童の家庭における学習の必要性を引き続き示しながら、持続した取組となるよう指導していきます。今後は1人1台端末の持ち帰りも推進し、児童が自ら学ぶことができるよう、保護者と連携を図りながら進めていきます。										

【12】 研修 授業 改善	【授業改善】 認め合いを取り入れ粘り強く取り組むための授業改善により、自己肯定感を高める学習指導を工夫している。										
 <p>A horizontal bar chart with a scale from 2.00 to 3.00. A red vertical line is drawn at 2.50. The bars represent the following scores: 教職員 (2.54), 児童 (2.41), and 保護者 (回答なし). The 評議委員 category is also marked as '回答なし'.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>2.54</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>2.41</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>回答なし</td> </tr> <tr> <td>評議委員</td> <td>回答なし</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	評価値	教職員	2.54	児童	2.41	保護者	回答なし	評議委員	回答なし	<p>主な記述評価</p> <p>〔教〕「子供が主体となる」教育活動を目指し、今後も年間の計画についてじっ案、検証、改善していきよりよいものを目指していく必要があります。</p>
評価者	評価値										
教職員	2.54										
児童	2.41										
保護者	回答なし										
評議委員	回答なし										
考察・今後の改善	教職員の評価は高いが、児童の評価がやや低くなっています。学習の進め方の提示や他の児童の学びを参照するなど、授業のねらいや工夫をしてきました。今後も児童に分かりやすく伝え、「できた」「わかった」など学びや成長を実感できる授業を目指し、授業改善をさらに進めいきます。										

【13】 生活 生活 のきまり	【児童の実態】 本校の児童は、緑小スタンダード(生活編)を守っている。										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>2.37</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>2.42</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>2.53</td> </tr> <tr> <td>評議委員</td> <td>2.50</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	評価	教職員	2.37	児童	2.42	保護者	2.53	評議委員	2.50	<p>〔教〕挨拶は自ら進んでとなるよう、今後も全校的に取り組んでいく必要があると思います。</p> <p>主な記述評価</p>
評価者	評価										
教職員	2.37										
児童	2.42										
保護者	2.53										
評議委員	2.50										
考察・今後の改善	保護者の評価が高く、家庭でも緑小スタンダード(生活編)が意識されていることがうかがえます。今後も学校と家庭が連携し、継続的な定着を図っていきます。										

【14】 リーディング DX	本校の児童は、タブレットを活用して自分の考えを整理したり、友達と考えを交流したりすることができている。										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>2.46</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>2.69</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>2.59</td> </tr> <tr> <td>評議委員</td> <td>2.50</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	評価	教職員	2.46	児童	2.69	保護者	2.59	評議委員	2.50	<p>〔保〕学級閉鎖になった際も、課題の内容を確認して取り組むことができました。</p> <p>〔保〕、昨年度のタイピングチャレンジ大会をきっかけに意欲的に取り組む場面が多くなりました。タブレット学習で得られたスキルは社会に出てから役立つスキルだと思いますし、小学校から取り組める機会を与えていただけて、息子のタイピングの才能も開花しました、ありがとうございます。</p> <p>主な記述評価</p>
評価者	評価										
教職員	2.46										
児童	2.69										
保護者	2.59										
評議委員	2.50										
考察・今後の改善	児童・保護者から高い評価が得られており、ICTを活用した学習が定着してきていると捉えることができます。今後も、より主体的・対話的な学びにつながる効果的な活用方法の工夫を日々の授業改善を通してさらに進めていきます。										

【15】 理科専科指導	【理科専科指導の成果】 本校の児童は、理科の学習に意欲的に取り組み、自信を深めている。										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価者</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>2.37</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>2.52</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>2.29</td> </tr> <tr> <td>評議委員</td> <td>2.50</td> </tr> </tbody> </table>	評価者	評価	教職員	2.37	児童	2.52	保護者	2.29	評議委員	2.50	<p>〔保〕今年度の理科の先生も、授業が分かりやすく、本人はとても気に入っているようです。ありがとうございます。</p> <p>〔保〕楽しんで取り組んでいて、理科で習ったことを家で話してくれる。</p> <p>〔保〕習ったことをお家で実験していたから</p> <p>主な記述評価</p>
評価者	評価										
教職員	2.37										
児童	2.52										
保護者	2.29										
評議委員	2.50										
考察・今後の改善	児童の評価は比較的高いが、教職員・保護者の評価がやや低い結果となりました。理科専科によるより専門性が高く系統的な学習や実験や体験的な学習をさらに充実させ、理科への児童の興味・関心を一層高めていきます。										

【16】 いじめ防止対策	【いじめ対応】 教職員はいじめ防止基本方針に基づき、いじめを適切に認知し迅速かつ組織的に対応している。										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>2.95</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>2.66</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>2.66</td> </tr> <tr> <td>評議委員</td> <td>2.50</td> </tr> </tbody> </table>	対象	評価	教職員	2.95	児童	2.66	保護者	2.66	評議委員	2.50	主 〔教〕連絡・報告を密にし、いじめ防止対策推進委員会を開くなどして対応しています。 な 〔保〕友達の良いところをたくさん話して教えてくれる、友達の悪口を言わない部分を見てそう思いました。 記 〔保〕先生が子どもたちの話をよく聴いてくださるおかげで、クラスの人間関係が良好になり、子どもが楽しく学校に通えるようになりました。ありがとうございます。 述 〔児〕嫌な言葉を使わない。 評 〔児〕いじめをしないで助け合ったりする。 価 〔児〕全員が人の気持ちを考える。
対象	評価										
教職員	2.95										
児童	2.66										
保護者	2.66										
評議委員	2.50										
考察・今後の改善	教職員評価が非常に高く、組織的な取組となっていると捉えることができます。今後も未然防止・早期対応を徹底し、児童が安心して過ごせる学校づくりを継続していきます。										

今年度の学校評価を通して、子供たちの学校生活が一年間を通して着実に充実してきている様子が見られました。年度の後半に向かうにつれて、学習面や生活面の多くの場面で安定した様子が見られ、学校全体として落ち着いた雰囲気の中で教育活動が進められていること捉えております。

学習面では、授業の工夫や日々の学習の積み重ねにより、「分かる」「できる」という実感をもつ子供たちが増えてきました。また、学習に向かう姿勢や学習習慣も徐々に身に付き、自分の学びに自信をもつ姿が見られるようになってきています。さらに、ICTの活用については、リーディングDXや校内研修の継続した取組を通して、機器やアプリケーションの操作等の日常的な活用についての技能は向上してきております。

生活面では、健康や安全を意識した生活、けじめある行動が少しずつ定着してきました。学校生活全体が安定し、安心して過ごせる環境づくりが進んでいることは、大きな成果の一つです。特に、いじめ防止に向けた組織的な取組や、子供たちの声に耳を傾ける教職員の姿勢については、年間を通して良好な状況が保たれていたと考えております。

一方で、友達と協力して取り組む活動や、自分から進んで行動する場面、ICT機器のより効果的な活用については、今後さらに工夫していく必要があると考えています。取組は進んでいるものの、子供たち一人一人が「十分にできている」と感じられる段階まで高めていくことが、今後の課題と捉えております。

今後も、これまでに積み重ねてきたよさを大切にしながら、子供たちが安心して学び、互いに認め合い、自分らしく成長できる学校づくりを進めてまいります。引き続き、保護者の皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。